



### 超高齢社会を迎えて

(一)

遅れた新年のご挨拶ですが、「あけましておめでとうございます。皆様の新年の歩みが豊かに祝されますようお祈り申し上げます。」

実は当法人は、この二〇二五年から(メール等の通信手段が増えたことなどもあり)、年賀状を出さないことにしました。おかげで、年末の慌ただしい作業の一つが減り、例年よりゆったり過ごせましたが、新年に年賀状を頂くのはやはりうれし、相手を思い出す機会になることを再認識しました。

「謹賀新年」という定型的な内容の賀状や、事業所の様子を伝えるものなど、文面は様々でしたが、「ああ、この法人には、すっかりご無沙汰してしまった」とか、「こ

発行  
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
 〒421-0412 静岡県牧之原市 坂部 2151 番地 2  
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
<http://www.yamabatogakuen.jp/>

機関誌代は無料です。



こも、クラスターを体験したのか」  
 等々気づかされたりしたのでした。  
 そんなわけで、賀状を頂いたこと  
 を感謝し、こちらからも返信の  
 ご挨拶はすることになっています。

(二)

さて二〇二五年は、団塊の世代(戦後生まれの赤ん坊が最大に増えたベビーブーム世代)が七五才

以上となり、日本の人口の五人に一人が後期高齢者(七五歳以上)という、今までにない「超高齢社会」に入りました。認知症高齢者の増加も大いに懸念されています。

かねてから「二〇二五年問題」ということが言われ、「社会保障費の負担増大」、「労働人口の減少による国内市場の縮小」、「介護・医療従事者の不足によるサービスの質の低下や、介護・医療システムの崩壊」、「後継者不足による廃業と、その結果もたらされる雇用とGDPの喪失」などの社会問題が指摘され、こういった課題に対処するため、国(そして、地方自治体)は、少子化対策に力を入れ、医療や介護分野は勿論、あらゆる分野にデジタル化を推進し、在宅福祉・医療の体制強化などに取り組んできました。その効果は、百分ではないにしても、徐々に少なからぬ影響をもたらし、多くの人々が「超高齢社会の課題」を認識。それぞれの分野や立場において、可能な実践をしてきたと言えます。

(三)

牧ノ原やまばと学園が、年々深刻な課題だと認識するようになってのは、「働き人の確保」でした。

当地は自然環境には恵まれますが、公共交通機関が少なく不便、といった弱点もあります。

私たちは、日本の若者の確保に努める一方で、シニア人材や子育て中の主婦の活用にも力を入れ、正規職員確保のために、優先的に外国人ワーカーを受入れることにしました。その結果、今では、EPA生や特定技能実習生、日本人と結婚した外国籍の人など計十二名の方々が、当法人の施設で良い働きをしてくれていて感謝です。

インドネシアのEPA生、Aさんは、日本で働いている仲間と情報交換する機会が多いのですが、こんな感想を述べました。「〇〇の施設はおかしいよ。夜も長い間働かされ、賞与は商品券だって。(中略)聖ルカホームはいいよ」と。

国籍を問わず、長く働いて頂くためには、労働条件の改善だけでなく、ご利用者を大切にし、職員同士が互いに助け合い学び合える関係になることが肝要なのでしょう。今後も外国人雇用を進めていく予定ですが、ご利用者にとって職員同士にとって、よい出会いとなるよう、施設長たちと共に工夫していきたいと考えています。

## (四)

「超高齢社会」に向けて、国は、かなり前から、「地域包括ケアシステム」の構築に力を入れてきました。その目的は、「要介護状態となつても、病院や介護施設ではなく、住み慣れた地域で暮らせる体制づくり」となっています。福祉に要する財源をこれ以上増やしたくないという思惑もあるのでしょうか。

一方、高齢者の現実としては、一人暮らしの場合、要介護状態になる前に、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅やケアハウスへ入居する傾向が見られます。その理由は、高齢になり、食事作りや建物の維持管理などが煩わしくなること。寂しい一人暮らしよりも、同年齢の仲間がいるケアハウスなどへ移ったほうがよいと思うからでしょう。実際、自立した高齢者のためには、目下、様々の高齢者施設（豪華な有料老人ホームから手頃な利用料のホームに至るまで多様なホーム）が開設されており、そういった施設が廃業に追い込まれない限り、高齢者の選択肢はいっぱいあると言えます。そんなわけで、要介護状態にな

つても地域で暮らし続ける高齢者というのは、長く家族とともに暮らした人か、或いは、諸々の事情で一人で暮らさざるをえない高齢者となり、「地域包括ケアシステム」の恩恵に浴する高齢者は、それほど多くないのかもしれない。

国は、労働力不足解消や生産性向上のため、かねてよりICTの活用を福祉分野にも促し、当法人でも補助金を頂いて器具等を購入、その方向へ向かって歩んでいます。十年後のことは定かではありませんが、たぶん、当法人の福祉施設では、日本人だけでなく外国人ワーカーもさらに増え、高齢者や子育て中の主婦も加わって、ロボットや見守りセンサーを利用しながら活気づいていることでしょう。

## (五)

前述したように、超高齢社会において、「認知症高齢者の増加」も大きな社会問題とされています。

その場合、「財源」や、「介護人材」のことが検討されがちですが、私は何よりも「認知症高齢者」が安心して暮らせる社会になることが重要だと思うので、その点について書いてみたいと思います。先日、カトリックとプロテスタ

ントのキリスト者が集う「一致祈禱会」があり、参加しました。

この会は、カトリック教会の神父様と、やまばと学園創始者の長澤巖牧師とが始めたものですが、その後、多くのキリスト者の共感を得て毎年開かれ、半世紀以上経つ今年も開催されたのでした。継続の背後には、Bさんというカトリック信徒の熱心な働きもありましたが、今回、私はBさんが認知症になったと事前に聞いて驚き、近況を知りたく思ったのでした。

祈禱会終了後、懇話会があり、その席でニコニコしているBさんに再会することができました。かつてと違って、私が名前を告げてもピンとこなかったようですが、「一致祈禱会」の歩みについて説明するときは、記憶も確かでした。

懇話会が終わりかけた頃、Bさんは立ち上がって、「図々しくてすみませんが……」と、挨拶を始め、終りの頃、こう述べたのでした。「私は認知症になり、今では人から信用してもらえませんが、今後ともよろしくお願いします」と。

私は、Kさんがご自分から「認知症」と告白し、最近は何かにつけ遠ざけられている悲しみを、ユ

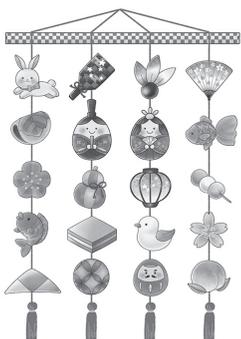
ーモラスに語る様子に心動かされました。その会場にはもう一人、認知症になった方がおられました。認知症になつても敬遠されたりすることなく、普通に交流できるといいなあと思つたのでした。

実は、わたしの友人二人も「認知症高齢者」となり、姉も認知症を発症し、それぞれ心を傷つけられる悲しい体験を味わっています。

認知症になつても、異常な人間になつたわけではないので、軽蔑したり特別視することなく、同じ人間として受け入れ、尊重し、その願いに耳を傾け、優しく交流すべきではないでしょうか。

認知症の方の幸せは全ての人の幸せにつながっていると思います。相手を笑顔にするという、ごく簡単なことを心がけたいと思います。

〈理事長〉長沢道子



## カローラの休日

奥 田 万 里

私たち夫婦には長年交流してきた「ドイツ人の孫」がいる。

カローラが初めてわが家にホームステイしたのは二〇一四年のことで、彼女は高校を卒業したばかりのピチピチのギャルだった。折しも滞日中にドイツの医大合格の朗報が彼女のスマホに届き、文字どおり跳び上がって喜んだ姿が今でも目に焼き付いている。2度目は二〇一七年、医学部3年生のときで、医学だけでなく哲学の領域や日本語にも関心を向けていた。カローラは、その後二〇二二年に医師の国家試験に無事合格し、翌年の四月からドイツ西部のトリアという町の病院で働き始めたのだ。

ほぼ一〇年のあいだに、私たちがドイツに行つてカローラの家族と交流したり、ときにはスカイプでチャットしたり、カローラとその家族とはまるで親戚付き合ひのような関係が続けてきた。子供のいない私たちにとって、今や彼女は「孫」のような存在なのだ。

一昨年の秋、そのカローラか

ら、急な申し出が入った。新米の医師にも2週間ほどの休暇が確保できたので、日本で骨休めしたいという。「温泉と海、それに富士山を近くで見たい」

一月初め、カローラを掛川駅に迎える。川根本町のわが家に到着すると、早速和室に寛ぎ、旅装を解く。8畳一間だが床の間があり、障子を隔てて広縁がついている和室を、カローラは「私の部屋」と呼んでいるのだ。

翌日午後は、カローラと私で住まいのある田野口区内を散策する。前年台風一五号による土石流ですっかり様変わりした田野口駅前の様子に、カローラ大いに驚く。電車がいまだ不通のままなのに、心を痛めていた。踏切を渡り、カローラに導かれて

沢が本流に流れ込む河口に下りると、目の前に大井川の雄大な景色が広がった。そうだ、ここはカローラが2度目の滞在のとき、対岸の河原から大井川をずぶ濡れになつて渡つた思い出の場所・・・その日カローラは、頼まれた買い物で対岸に一人

で出かけたのだが、「タダイマ！」の声とともに玄関に立った姿を見て、私はビックリ仰天。カローラ、何と裸足？両手に靴を下げ、買い物袋を小脇に抱えている。「一体どうしたの？」「一度は川に入つてみたいと思つていた。でも水量が思ったより多くて、靴と荷物を頭に乘せて渡つたよ」。カローラのヤンチャな一面を見て、大笑いしたものだ・・・それにしても私は、移住してこのかた、水際からの大井川の勇姿を知らないままだった。負うた子に教えられるとはこのことだ。

3日目、夫のドイツ語講座の仲間と、笹間上の「カフェ蛭」に集い、日独英の3カ国語が飛び交う楽しいひとときを過ごす。4日目は、カローラのたつての願いで、島田カトリック教会のミサに参加した。カローラはプロテスタントだが、日本ではカトリックのミサがどのように行われるのか興味があつたようだ。二〇人ほどの信者が参会、突然現れた3人の珍客を驚きつつも受け入れてくれたのは有り難かつた。

6日目は静岡市内の友人宅に出かける。最初のホームステイのとき、カローラが一晩お世話になつたお宅で、友人夫婦の孫娘リンちゃんは、

そのとき以来カローラに憧れていたらしい。あるとき小学生だったリンちゃんはスラリとした高校生に変身していた。しかもすでに語学留学を果たし、素晴らしく流暢な英語でカローラと会話をするまでに成長している。

歓迎会でリンちゃんはカローラの隣に座り、実に楽しそうだった。リンちゃん、「ゆくゆくは医者になりたい」という大きな夢を抱いている。カローラの存在は確実に次世代に受け継がれていくだろう。

翌日は、カローラが書道をしたいと言いつつ。2度目の来日るとき、東京の友人宅で書道の手ほどきを受けたカローラ、気に入った言葉を漢字で書きたいというのだ。選んだ漢字は「希望」「誠実」「家族」「春夏秋冬」「花」「風」「光」「流水」など。私が下手な手本を書いて見せると、一心不乱に紙に向かう。そして最後に2枚の書を私たちに手渡した。オジイサンには「平和」を、オバアサンには「愛」。嬉しかったよ、カローラ。

温泉や、富士山、天ぶらや刺身など、日本を堪能して帰国したカローラ、今年には母親を連れて遊びに来たと言っている。

## 息子 祝 成人!

クアセンター花もも 河合美紀

二十年前の夏、「痛い！」まだ妊娠八か月の私。夜中の腹痛で目が覚めた。長男も隣で寝ているし少しガマンした…が、十分おきに痛みが来た。「これ陣痛だ！」と寝ている主人を起し救急車で病院へ。三時間後に産まれた子が今から話す主人公『河合星輝』の誕生です。

一六〇〇グラムの小さな小さな赤ちゃんでした。保育器の中でミルクを飲むと呼吸をするのを忘れ息が止まり青色くなっていく。生と死の堺でハラハラし、やはり早産だった為色々あり、脳性マヒ。幼い頃は何も出来なく、このまま寝たきりの子になってしまうのかと思いましたが、今では電動車いすを左手で運転し移動が出来る様になり、通所の「花もも」へ毎日



楽しく通っています。

「花もも」では家では出来ない事やイベント等の行事をやってくれるしお話を沢山してくれるので私の車中で話をしてくれるので私にも楽しかったことが伝わります。

成人になっても私の可愛い息子には変わりなく、今でも自分で出来るのに母に甘えてやってもらおうとしますが、本人は大人になった気分で見たいので、犬を飼っているのですが『僕が見ているからママ買い物に行つて来てもいいよ』なんてお兄さんぶったりして笑えます。犬は何時でも留守番しているのに(笑)。まだまだ、手のかかる息子ですが、母は成人を迎えられた事、嬉しく思っています。

未熟児で生まれ、生きるか死ぬかハラハラし何度も入院を繰り返した日々を懐かしむ事が出来るのも、今、生きて成人を迎えられたからだと思います。

「花もも」の皆さんにも母子共々お世話になりいつも感謝しています。これからもよろしくお願ひします。

星輝☆成人 おめでとー!

これからも、いっぱい話して、いっぱい遊んで、いっぱい生きるんだぞ!

(保護者様)

## 「コスモスでのクリスマス

島田高校一年生 宮本羽菜

十二月十三日、ワークセンターコスモスで「みんなのクリスマス会」が開かれました。島田高校からは、家庭部五人、吹奏楽部十八人、生徒会三人、引率の先生五人の計三十一人で参加させていただきました。

生徒会の進行によって開会のあいさつが行われ、参加者の自己紹介をしました。ご利用者さんも、とても元気に自己紹介をしてくださり、今日を楽しみにしてくれていたんだなと実感しました。

その後、家庭部と皆さんでクリスマスツリーの装飾をしました。

家庭部はツリーのオーナメントとアイシングクッキー(砂糖衣などで色付けやデコレーションしたもの)を手作りして持参しました。「これかわいい」など、たくさん言ってもらえたことが嬉しかったです。

皆で飾りつけたツリーはきれいに仕上がりました。

吹奏楽部は、「すてきなホリデイ」「ムーンライト伝説」「学園天国」を演奏しました。久しぶりのイベントだったため、緊張しましたが、温かい拍手をもらいリズムに乗ってく

れている皆さんのおかげで緊張が解れ、部員全員が楽しんで演奏することができました。また、アンコールをしたくなり、「Runaway Dog」を演奏しました。楽しんでもらえてよかったです。

最後に、家庭部が作ったクッキーを贈呈しました。喜んでいらっしゃるを見たら、私たちも嬉しくなりました。また、コスモスの皆さんからもプレゼントをいただき、ありがとうございました。

私は、障がい者の方が働く施設があることを初めて知りました。私たちとの交流で、ご利用者の皆さんが楽しい時間を持てたなら幸いです。



(高校生)

### 安全運転講習会

シャローム 栗林真弓

「ハンドルを握るあなたと、みんなの未来を守るために」をテーマにMS&ADインターリスクス総研(株)様により、安全運転講習会が開催されました。

交通安全に関する講習会は毎年開催され、送迎車の運転手だけでなく、やまばとで働く全ての事業所・職員が対象です。

運転前には「今こそセルフチェック」を行い、焦り・怒り・不安などがなく、ココロチェックと睡眠不足・ストレスなどがないか?の力ラダチェックをし、心身のコンディションを整えることが大事なことを気づかされました。

講習会はリラックスした雰囲気のなかで進められました。

事故の多い月・曜日・時間などの統計を確認したり、交通安全0×クイズでは、解答を手で大きくポーズ

したりしました。車が走る様々の映像を見ながら、どこに危険がひそんでいるかを推測したり、なぜ事故に至ったのかを確認したりもしました。残念ながら会場に来られなかった職員に対しては、各事業所内での伝達研修だけでなく、動画配信により同様の講習を受けることができる環境も与えられたのはよかったですと思います。

安全運転のポイントは「気づき・目くばり・思いやり」です。

これは私達が日々の働きの中でご利用者様に対して実践している事と同じと言えます。相手を大切にすることが通じているんだなあ...と思いました。

ハンドルを握る際は、ぼんやりしたり、雑念にとらわれたりしないで、「運転中」という意識を高くもって、思いやり・ゆずり合いの運転を心掛けたいものです。

(施設長)

### ニコニコクリーン大作戦

ワークセンターなのはな 松浦織江

今年のニコニコクリーン大作戦は、なのはなご利用者Nさんの絵がチラシに掲載依頼される事から始まりました。私たちは、十二月五日の「その日」に備えて、昼休みを利用して皆で腕章にきれいに色塗りをしたりしました。

ニコニコクリーン大作戦は、島田市内の施設や事業所のご利用者、民生委員、市役所や社協の職員等、障害の有無に関わらず、福祉関係者が集って地域の清掃活動をし、それを通して、社会貢献を実感すると共に、障害への理解を深めてもらう活動です。

当日は総勢五十名程集まり、「なのはな」からは、ご利用者七名職員三名が参加し、S公園を担当しました。



銀杏の薫る中、イチヨウの木の下の沢山の実や落葉を皆で拾い集めました。時折かき集めた落葉が風で舞ってしまつというハプニングもありましたが、皆、公



園をきれいにしたいという一心から、一生懸命に落葉を拾って集めていました。途中、市の職員から別の場所での応援を頼まれた。そこには山になった楓の落葉が…。あまりの量に皆で驚きながらも、ご利用者は、一般の方々と一緒に頑張って、黙々とかき集めました。そのひたむきな姿を見て、終了時、共同作業した方たちから「頑張ったね」「ご苦労様」という言葉が掛けて頂きました。

ご利用者Nさんの絵は、市役所のロビーに展示されていたのですが、その絵を見つけた仲間たちは「すごいね」と称賛。Nさんはとても嬉しそうでした。

肌寒い日でしたが、心も身体もポカポカ暖かくなったニコニコクリーン大作戦でした。(支援員)



歩みのあと

(11月1日〜12月31日)

●全体的なこと

●11/8 21定期監事監査は飯塚善之監督が担当。11/14 全体防災訓練。電気、水道を停止して訓練。11/18、19 吉浦輪先生によるケース事例検討会。11/27 交通安全全講習会。講師は杉本正子氏。11/29 リング。6 第2次補正予算等ヒアリング。12/15 藤原教会にて管理礼拝。12/17、24 理事長による管理面談(リモート)。

●個別のニュース

●(法人) 11/5 長澤理事長、日キ社事同盟の教団との関係を考える会にリモート参加。11/7 2 導入補助金話し合い。11/14 第2回評議員会(書面)。議案は定款の変更。11/14、16 日キ社事同日リミックス研修。島夏実参加。11/28 理事長、聖隷学園評議員会へ出席。12/14 第3回理事会。議案は定期監事監査報告書。12/23 ぶくしの就職相談会。11/26、12/26 給与検討会。小山圭子社会保険労務士も参加。

●(垂穂寮)

●11/6 六原荘の牧田氏、生子氏を招き自閉症研修会。同日夜、感染症初期対応訓練。12/5 ニコクリン作戦に参加し、中央小公園清掃。12/14 クリスマス会。ご家族を招き、豪華な食事とヒエロの余興。12/18 インドネシア介護福祉士実習生2名が到着。12/26 ご利用者インフルエンザ発症その後集団感染に。

●(野ばら)

●11/11 3 大津ふれあいまわりお出店。やまばとのパンと野ばらのストラップ、ペン立てを販売。11/21 市内のショップでセーターで買い物と昼食。12/3 愛護ギャラリ展。3名の作品が受賞。12/13 うなぎパイフェア。24クリスマス会。12/24クリスマス会。11/16 小グループで静岡空港へドライブ。11/21 インフ

ルエンザ予防接種。12/15 クリスマス会。12/27 利用者インフルエンザ感染。拡大は防ぎ、年末年始部ご利用者帰宅。●(やまばと希望寮) 11/2 雨の中を鑑賞。11/15 県知協オレンジマソンのイベント参加。トラックアウトなどを講師に。11/29 吉田消防署員を講師に救命講習受講。12/14 クリスマス会。ドレミコンサート等を満喫。●(生活支援センター) 12/8 令和6年度在宅重症心身障害児者対応多職種連携研修を、担当施設として開催。●(わかば) 11/16 おやつ作り。チョココレットケーキ。12/15 おやつ作り。プッシュドニエルを楽しまもくれん。12/1 吉田港海岸清掃に参加。●(花もも) 11/3 真菜、聖ルカ、お花ご利用者 & 職員とハロウィン仮装大会。11/13 金谷手打ちそばの会による新そば打ち。コシがあり大変美味。●(かたちりの花) 11/22 焼津おもちゃ館、焼津防災センター、陽たまりランチ。12/6 保護者会による大掃除。ありがとうございました。20 年間練習した演奏を披露。ご家族から大拍手、感動的なクリスマス会。●(マーガレット) 11/28 パス旅行で富士サファリパークへ。沼津の美味しい料理に満足。12/20 さくら、レタスクラブと合同クリスマス会。催し物やケーキを楽しま。●(カサブランカ) 11/21 インフルエンザ予防接種。12/24 クリスマス会。岡村十二男氏からクリスマス、聖書のお話。12/31 仕事を納め、年越しそばと握り寿司を頂き、1年の頑張りを労う。午後は作業場の大掃除。●(コスモス) 11/8、15 個別体験学習で浜岡原子力発電所見学。匠宿でステんシル巾着作り。11/14 防災訓練では、車椅子避難。12/13 島田高校との交流クリスマス。吹奏楽の演奏を楽しま。●(なののはな) 11/14 社協出前講座。座防炎作り。●(希望の家) 11/14 引き渡し訓練。ご家族等の協力に感謝。11/22 第3回モルック大会。景品のたいやきは大好評。12/19 4年ぶりに、保護者を招き、クリスマス会。食事やゲーム。●(ふれあい) 11/14 川根小学校までの避難経路を確認。12/23 クリスマス会。保護者会より頂いたプレゼントをサンタクロースが配布。12/27 引き渡し訓練。●(あさがお) 11/14 防災訓練。後日、非常食を試食。11/15 ボウリング大会。2 ゲームで成績を競う。12/3 笑いヨガ。12/20 年賀状作り。●(Woo) 11/23 石雲院富士山静岡空港飛行場デッキへハイキング。気持ち良い秋の日で皆頑張る。12/6 クリスマツリーを飾り祝い。12/12 チュリッパ植栽。春が楽しみ。12/12 大関様のご厚意で、袋いづいみかん狩り。12/27 大掃除。すっきり綺麗になる。●(さくら) 11/14 津波を想定し隣りの建物に垂直避難訓練。12/20 あつまりナクリスマス会。合唱や体を使ったゲームを楽しま。●(レタスクラブ) 11/18 吉田海岸清掃。12/20 あつまりナクリスマス会では、合唱や体をつかったゲーム等を楽しま。●(聖ルカホーム) 11/1 坂部小学校の授業の一環で松ぼっくり拾いに協力。11/16 牧の原市三育会、当法人共同主催の、介護を学べるイベント「ナツとき。カイゴ」開催。テレビでも放映。11/19 クリスマス会。12/23 山の会から正月飾りをいただき、12/24 藤原教会員によるクリスマスキャロル。12/26 餅つき、藤原高校野球部が協力。●(グレイス) 11/12 相寿司から借りた焼き芋器で、焼き芋づくりに好評。同日つききニットではソフトラッキングで身体を動かす。11/15 あさがおユニットで運動会。12/18 池新田高校企業セミナーに出展。12/23 里山の会様による餅つき披露と門松飾り。12/24 運営推進会議。12/24 藤原教会員によるクリスマスキャロル。●(相寿司) 11/5 習字クラブ。11/7、21、12/5 秋の外出で御前崎なづら館で食事や買い物。

11/9 おやつにケーキ。11/12 誕生日外出会。11/15 ストラックアウト大会。11/19 20 笑いヨガ。11/29 お楽しみクラブ。12/19 クリスマス会。12/27 お手玉大会。●(真菜) 11/3 花もものハロウィン仮装パーティーに参加。11/5 利用者ご家族によるハロウィン演奏。11/7 本が好き利用者さんと図書館で本を借りる。11/11 図書館で肉じゃがと梅ご飯。11/16 ナゾときカイゴ。12/3 たい焼きを買いに聖ルカへ。熱々に大喜び。12/17 昼食は菜めしと大葉入りつくね。香りが食欲をそそる。12/23 も利用者さんと大盛り上がり。12/26 聖ルカの餅つきへ。●(すずらん) 11/6 おでんとサツマイモご飯を皆で協力して完成。11/19 最高齢者の102歳の誕生日。生懸命動かし派に子ども育てたことが自慢です。12/20 年越しそばと福荷むすびを調理。今年の感謝と来年の健康を祈願。12/16 新年飾り作り。ミニ羽子板を折り紙の花や折り鶴で飾りつけ。●(さくらん) ケアマネさんから「看取り介護をするにあたり、さくらんへ依頼したい希望多い」と聞き、職員会とスタッフに伝達。●(シャロム) 11/7 ケアマネ連絡会研修企画打合せ。11/11、12 課題検討会。11/12 主任ケアマネ向け事例検討会。11/16 ナゾときカイゴに参加。12/7 県ケアマネ協会災害支援リーダーの研修。能登半島地震の実際を学ぶ。●(オリフ) 11/14 指定避難場所の川崎小学校屋上まで避難。事務所の海抜は4m。静波海岸までは約1km。津波が一番心配。12/27 御用納め。市役所各課の行政職員と一緒に大掃除。●(ぶどうの木) 11/14 防災食の試食。感染症研修でDS真菜にて学ぶ。11/21、12/13 3編あきさんによる講話。12/19 から1週間クリスマス会。ゲームでプレゼント頂きハンドベルなどで盛り上がる。

●(ボランティア活動) ★活動者名(個人は姓名のみ) 個人 大石節子、大塚はるみ、小島茂美、後藤、鈴木勝、鈴木栄、殿村、内藤、中原、廣田春美、村松淑乃、三浦、吉永、渡辺。団体 牧の原市日赤奉仕団(草取り)、やまばと希望寮保護者会(草取り)他。実習生受け入れ状況 ●(垂穂寮) 日本福祉大1名 5日間 静岡福祉医療専門学校1名 10日間 ●(聖ルカホーム)

あとがき ☆表紙の写真は、ワークセンターあさがおのご利用者。毎朝、職員と新聞を見ることが楽しみ。広告から職員が好きなコーヒーの発売日を見つけてくれました。 ☆3ページの筆者は、元高校で数学を教えた方ですが、文字が作つた男、奥田駒蔵とメイソン、鴻乃菓(幻戯書房)を出しておられます。静岡市生まれで、現在、川根在住。 ☆年末年始からのインフルエンザ感染が増加しています。皆様の心身が守られますようお祈りいたします。(I)

寄付金状況報告 (単位:円)

Table with 3 columns: 寄付金, 指定寄付金, 合計. Rows for 4月~11月, 12月, and 計. Total amount: 7,568,894.

※2022年度より、機関紙代収入は計上していません。すべて寄附金収入として、計上しています。